

【審議会からの意見・指摘】

- 町民の健康づくりと連携したフィットネスなどのヘルスケアビジネスなども戦略の中で進めてはどうか。
- こどもが安定的に生まれたとしても、成長後に働く場がないと地域は活力がなくなる。働く場がないことで過疎化する地域も多いことから、地域に誇りを持てるようにする施策が必要。
- 子育て、働く場、プライベートを楽しく過ごせる場が必要。
- 公共交通の整備については、年齢などを含め利用者ニーズの把握が必要ではないか。南風原町にバスのターミナル機能を構えることも検討してはどうか。
- 待機児童解消に向けた取組が必要。
- 戦略に定めた施策を実行する人の配置が重要であり、人材の確保や人材育成が必要。
- 取り組みの途中経過における進捗の確認が必要。
- 南風原町の魅力を町内だけでなく町外に向けたアピールも必要。
- 若い人が住んでくれないと活力の維持は難しいため、若い世代を住まわせるイメージアップの展開を考えてはどうか。
- 雇用創出については、行政の姿勢を町民に分かりやすく、具体的に示すために企業誘致の取組も必要。
- 災害や防災対応がとても重要になると感じている。保険など個人で対応できる部分以外、町として人の命を守る取り組みが優先的に必要ではないか。
- 高齢化が進むと思うが、人口構成からみて若い世代も必要。町出身のこども世代（次男三男）が住みたくても土地がないという話を聞く。戸建てを欲しいというニーズへの対応も必要。

- アンケートのまちの課題であげられている、道路・交通、公園や図書館の整備についても取り組む必要があるのではないかな。
- 近隣自治体の発展の影響が南風原への企業進出の機会を失う可能性もあることから、総合戦略のスピード感がカギになる。
- 他の自治体と同様な取り組みとならないよう、町の独自性や長所を示せるようにすることが必要。
- 待機児童数の解消過程、方向性を示す必要がある。
- 地域産業の育成や雇用創出が内向きであってはならない。町外から人を呼び込むには、伝統工芸品等のブランディングが求められる。
- 本町には、女性会が不足している。時代に合った形態で、各世代・分野ごとのコミュニティを形成していくことが必要。
- 南風原北・南 I C が 2 箇所あることは、町の優位性であり、北部観光の出発点としてホテル等があっても良い。早期に取り組むべきでないかな。
- 高齢者の雇用促進支援に関わる文言を入れられないかな。
- 「暮らしやすいまち」であることをピールする施策を検討できないかな。看板や大型ビジョン等で継続的に情報を提供することも必要。
- 特殊包材の活用や地の利を活かした農産物のアジア輸出を目指しても良いのではないかな。
- 地域のつながりは、災害時や防犯意識において大きな影響があり、自治会等を核にした地域コミュニティを形成する施策等も必要。
- 高齢化が進むことが見込まれているので、高齢者の雇用、就労支援について出来れば入れて頂きたい。今のままの表現だと漠然としている気がする。
- 高齢者の雇用促進の意見が出たが、総合戦略では全体がつながるイメージを持って進めて頂きたい。例えば、新規就農者を増やす目標も定めており、耕作放棄地を町外の方に利用してもらい（貸し農園等）、日常的な畑の管理を近隣の高齢者が担うなど。農地の活用と高齢者の生きがい就労（雇用促進）、

コミュニティづくり、健康づくりを連携して進めていくなどのイメージ。

- 耕作放棄地について、JAでは、「いきいき農園」として一区画 25 坪、現在 50 名が利用している。10 年以上経ち、申込みも多い。対象者は南風原町民のみとなっている。
- 兼城十字路にある電光掲示板の活用について、掲示板の上部に「はえるん」を設置するなど、興味を引くアイデアが必要。
- 取り組みの途中経過や進捗を確認して、評価を進めてほしい。
- 餅など伝統工芸のブランディングについて、他の事例では大島紬をフィギュアスケートの宮原選手に衣装として着用してもらい PR を行っている。餅も、インパクトのある PR の仕方、みせ方を工夫する必要があるのではないか。
- 6 次産業には懐疑的なところがある。農作物でよくジャムをつくる事例があるが、失敗した事例もたくさんある。失敗しないためにも南風原町にある才能、資源、マーケティング、金融との連携など、官民一体となった多角的な検討が重要。
- 人口が増えるに伴い高齢化が進む。東京に行くと高齢者でマラソンをしている人が多くいる。走る人、歩く人が多いのは、それができる歩道や公園、ウォーキングコースなどの環境がある。那覇では新都心公園や漫湖公園のウォーキングコースがあるように、高齢者が楽しめる環境、高齢者が楽しめるまちづくりを進めるという視点も必要。子育て世代がベビーカーで移動しやすいまちづくりという視点からも必要。さらに歩道が広ければ、災害時にも有効となるのではないか。